

日本地理学会2025年秋季学術大会

日本地理学会2024年秋季学術大会は青森県弘前市の弘前大学において、9月20日（土）、21日（日）を中心開催された。

口頭発表における「人口・行動」に関する報告は、以下の通りである。これらの報告以外にも、人口減少社会における広範な問題に関する興味深い報告も見られた。例えば、地方都市における分譲マンションの持続可能性、東京大都市圏における墓地供給、青森市の除雪体制に関する報告が見られた。これらの報告は、人口減少に伴う課題の顕在化により、社会におけるさまざまな制度の在り方について、早急な見直しが必要となってきることを感じずにはいられなかった。また、当研究所からは下記の小池司朗部長ほかの報告以外にも、久井情在室長が「広域地名「奥州」の市名化に関するスケル論からの考察」と題した報告を行った。

「日本の都市圏における通勤者の重力モデルの改善：時間および空間構造に基づく解釈」

……………鄭軼璇（東京科学大学・院）、高安秀樹（東京科学大学）、高安美佐子（東京科学大学）
「都道府県間人口移動変化の人口学的要因分析—日本人と外国人の比較を中心に—」

……………小池司朗、中川雅貴、菅桂太（国立社会保障・人口問題研究所）
「多様な世代で構成される高齢年大規模住宅団地の実態と世代循環」

……………森泰三（ノートルダム清心女子大学）

（貴志匡博 記）

経済地理学会2025年度地域大会

経済地理学会2025年度地域大会は、10/11（土）に北海道教育大学函館校（北海道函館市）においてシンポジウム形式で開催された。主催は、経済地理学会北東支部と日本学術会議地域研究委員会縮小社会の地域構想分科会であり、筆者は日本学術会議の連携会員として当分科会に参加している。

「縮小社会の地域構想」をテーマとしたシンポジウムは、第1部が地方自治体職員の報告による「実務家の視点から」、第2部が研究者の報告による「学術の視点から」という2部構成であった。第2部は分科会の議論のなかで立てられた「人口減少と東京一極集中」「地域生活圏」「産業立地と地域政策」「多文化共生」の4本の柱で報告が行われ、筆者は「人口減少と東京一極集中」の報告を務めた。第1部も含め、すべての報告はそれぞれ独創的な視点を基とする充実した内容で示唆に富んでおり、活発な質疑応答も相まって有意義な地域大会となった。

（小池司朗 記）

第90回日本健康学会総会

2025年10月11～12日に、北海道大学にて第90回日本健康学会総会が開催された。筆者は、大会長である山内太郎北海道大学教授が座長を務める「人類はどこに向かうのか：日本と世界の人口変動から見えてくるもの」と題する基調講演および谷口真人 総合地球環境学研究所研究基盤国際センター教授との鼎談、さらに「老衰死の現状と今後の対応」と題する口演（今永光彦 奏診療所医師、木下博之 科学警察研究所長、丸井英二 人間総合科学大学教授との共同報告）を行った。